



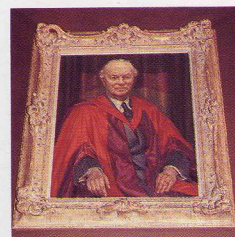
世界の大学シリーズ(20) キール大学 (イギリス) -本館-

キール大学の創設とそこでの教育実践は、「20世紀イギリスにおける最も独創的な革新」だとされる。サセックスなど1960年代に設立された新大学への道を切り開いたのはキール大学なのである。キール大学はウェッジウッド陶磁器で有名なポッターズ地方の労働者教育運動に胚胎し、R.H. トウニヤやA.D. リンゼイなどオックスフォード理想主義学派に連なる「行動する大学人・市民的学者」の支援のもとに誕生した(1949年)。

他の多くの新興の大学と異なって、設立当初から独自の学位授与権を獲得。実験の自由を得て画期的なカリキュラムを創出し、広い視野をもった教養人の育成を目指した。そのカリキュラムの第一の特色は、一年次の学生全員に対し学問の全領域を展望する基礎学年コースを必修化した点にある。広大なキャンパスに教師・学生がともに居住する、濃密な知的共同体の創出もキールがめざしたところであった。

学問の専門分化の進行著しく、デパートメンタリズムの弊害が問題となりつつあった時代、オルテガの大学論やハーバードの一般教育改革に学びつつ、初代学長リンゼイの高邁な教育理念と卓抜なリーダーシップのもとに、時代に先駆けて大胆な大学教育の革新を試みた大学、それがキールなのである。

教育学部教育哲学・教育史講座
安原義仁(やすはら・よしひと)



初代学長 A.D. リンゼイ



図書室風景



表紙
生物生産学部
水族生理学研究室
吉田 将之
(よしだ・まさゆき)

エンゼルフィッシュの脊髄内運動ニューロン。
このニューロンの活動によって筋を収縮させ、
遊泳運動を行う。

